

泣かれんよ

結城文

昨日から点滴が五百CCになった
そのせいか少し生気がないような母
枕に泪のしみがある

声をかけると
また泣きそうな表情

「泣かれんよ」
祖母の使つてた松山弁が
私の口からすべりでる

「泣かないで」よりも
「泣かれんよ」の方がいい
「泣かれんよ」
「泣かれんよ」

いくらそういつたつて
その心もとなさは
九十五歳になつてみなければ
わからない

思わず口をついて子守唄
「ねんねんたんです ねんねんたんです
ねんねんたんですよー」
子供にうたつた子守唄

母の唇がかすかにうごく
一緒にうたっているかのように――

私は母の母になつた
小さな声でまたうたう
「かーらーすう なぜなくのー」
「泣かれんよ」